

2020年5月24日(日)

老球の細道545号

## 新日本バスケットボールのルール変遷史⑦〈2000年代〉最終回

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

私はカレンダーに色々な記念日を設けて、反省と初心に戻る動機づけにしている。それによって、とかくマンネリと惰性になりがちな「加齢なる日々」を、少しでも、気持ちだけでも「華麗なる日々」になれるよう無駄な努力をしている。

5月16日は「ミラクルの日」。今回で14回目をむかえた。2006年坂下高校男子バスケットボール部が高体連会津地区大会初優勝を成し遂げた日を記念して制定した。たかが地区大会といえども前年は地区大会1回戦で敗退したので、私にとってはミラクルであった。最後まであきらめないこと、常にミラクル、アップセットを狙うことを戒めとした。

この時のミラクル優勝に関係したのが、前年に前倒しで採用された「フリースロー成功後のタイムアウト」ルールだった。決勝は会津高校とで残り8秒で同点。そこで坂下のキャプテンI君が3Pを打ってファールをもらい3シュートのフリースロー。冷静に2本決めて3本目を打つときにU君が3本目をどうするかベンチの私に向かって指示を求めた。3本目を入れて会津高校にタイムアウトを取らせるか、落として相手にタイムアウトを取らせないか決断の瞬間であった。それまで私はその新ルールは頭になくて土壇場で選手に気づかされた。指示を与える間もなくI君は3本目のシュートを落としたが、最後は死に物狂いで守り切って2点差でミラクル優勝を果たした。

ゲーム終盤での1, 2点差を争う接戦では、コーチがルールを熟知して采配をしないと、勝てるゲームをみすみす落としてしまうことがある。泣くのは選手たちである。

### 【2007年の主な変更点】(2008年29回北京五輪)

○最後のフリースローが成功したあとは、どちらのチームにも交代やタイムアウトが認められることになった。

○第4ピリオド及び延長時限の最後の2分間にバックコートのアウト・オブ・バウンズでスローインボールを与えられるチームがタイムアウトを取った後は、センターラインのアウト・オブ・バウンズからスローインをしてゲームが再開されることになった。

### 【2009年の主な変更点】(2012年30回ロンドン五輪)

○フロントコートからジャンプして、空中で相手チームのボールをインターセプトしてバックコートに下りることはバックコート・バイオレーションとはしないことが決められた。

○バックコートからドリブルでセンターラインを越えるときは、「ボールとドリブラーの両足がフロントコートに触れたとき」にボールがフロントコートに進められたことになると決められた。

○パスのボールがリングに触れた場合でも24秒計はリセットされることになった。

○肘を激しく振り回すことはテクニカル・ファールとすることになった。 〈完〉